

# 仏教と 生きてきた言葉

幡ピーター

数ヶ月前、宇宿（うすき）パトリシア先生のエッセイを読む機会がありました。宇宿先生は浄土真宗本願寺派（西本願寺）のサンフェルナンドヴァレー本願寺の開教使で、そのエッセイの題は「仏教とはいかなる言語か」といいます。先生のエッセイを読んだ時、その内容が大変時宜にかなったものと思えたのです。現在、アメリカにあるどの真宗寺院も、益々多様化しつつある参詣者層をいかに受け入れていくかという問題を抱えている時期だからです。この問題に関し、よく中心的に取り上げられる事柄が言語の問題です。寺に

初めて足を運ぶほとんどの方の言語が英語であるにもかかわらず、日本語がかなり使われており（例えば勤行や讃歌など）、日常的な英語はまだ十分に使用されていないのです。つまり言語そのものが、新しい方々のみならず、長年の門徒で英語を主な言語とする方々にとっても障壁となつてしまつていゝのです。こうした意思疎通における中心的課題を踏まえた上で、宇宿先生が指摘されていることは、アメリカの浄土真宗においては日本語を主要言語とすべきではないということです。私は以前から寺報など

を通して宇宿先生を存じ上げておりましたが、先日講師として法要に招待していただいた際に、先生のことをより良く知ることができました。そこで私が驚いたことは、先生は日英両語を話す（日本で教壇に立たれていたこともあり）ことができるばかりではなく、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、そしてイタリア語にも堪能であるということでした。多言語に精通されているということを考え合わせると、先生がエッセイで述べられていることが益々重みを増して感じられます。先生は単に分らない外国語であるという理由だけで、日本語を主要言語とすることに異議を唱えられていゝのではないということです。宇宿先生はご自身が以前に経験されたことが発端となつて、このエッセイを書かれたようです。

そのご経験を振り返つて、先生はこのように仰いました。「京都の中央仏教学院で学んでいた時のことです。そこで何人かの先生が授業で、浄土真宗を理解するためには日本語を理解しなければならぬ、と言われたのです。言うまでもなく、私はその言葉に驚きました。授業は明確に理解できていたにもかかわらず、その言葉は衝撃的でした。もし浄土真宗が仏教であり、仏法があらゆる

（3 ページに続く）

## 二月行事予定

- 十四日 祥月法要
- 二十二日 家族礼拝
- 二十四日 ご命日法要
- 二十八日 日曜礼拝

## 三月行事予定

- 六日 祥月法要
- 七日 ゴルフ大会
- 八日 日曜礼拝
- 十三日 日曜礼拝
- 二十日 春季彼岸法要
- 二十七日 日曜礼拝
- 三十日 ご命日法要

## 四月行事予定

- 三日 祥月法要
- 三日 仏教連合会
- 三日 花まつり

## ご命日法要

（毎月最終水曜日・無料）

別院では毎月月末の水曜日午後一時より親鸞聖人御命日法要がございます。どなた様もお気軽に参加下さい。お待ちしております。

# 春季彼岸会

三月二十日（日）  
午前十時

## 別院ニュース

### 年末大掃除

年末の別院大掃除ではメンバーならびにその友人、家族が集まりお寺の台所、ソーシャルホール、教室、本堂、正面玄関を掃除してくださいました。皆様方のおかげで清々しい気持ちで修正会の法要をお勤めすることができました。

### 除夜会

十二月三十一日大晦日。別院では一年の締めくくりとして午後6時半に除夜会をお勤めし、ゆく年を静かに振り返るひとときとなりました。別院の定例の礼拝の中でも除夜会法要は唯一、日が暮れてから始まる法要で、格別に静かで厳かな雰囲気があります。法要後は年越しそばをいただき除夜の鐘をついた後、参詣者はゆく年を惜しみながら家路に着きました。



### 餅つき

毎年恒例となった年末のもちつきは十二月二十八日に行われました。修正会にお供えするお重ね作りから始まり、お家に飾る小さな重ね餅、お雑煮用の小餅、餡(あん)入り餅と次々とテーブルにたくさんのお餅がきれいに並べられていきます。初参加の人はベテランの人の隣で熱いお餅に四苦八苦しながらも楽しんで作業をしていました。ソーシャルホールは楽しい笑い声に溢れていました。昼食はつきたての柔らかかな餅をいただきました。

今年も重ね餅、餡入り餅に加えてチョコレートやピーナツバター入り餅が登場しました。また、色も定番の白の他に青やピンクなど、色鮮やかな餅がテーブルの上に行儀よくならんでいました。ルンビニ保育園の子ども軒で餅をつき、かわいいお重ねを作りました。今年も餅つきを取り仕切ってくださいました山城家の皆様にはこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

す。おかげさまで今年も参加者の皆さんに楽しい時間を提供することができました。そのほか、餅米の調達から、当日の準備、餅米蒸しなどを一手に引き受けてくださった方々にも深く感謝いたします。さらに、風月堂様からはこの日のためにと餡(あん)と餅粉をいただきました。温かいご寄付に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

### クッキー交換会

初めてのイベント「クッキー交換会」が十二月十二日土曜日に行われました。この「クッキー交換会」は、各自がお寺の台所に材料とレシピを持ち寄ってクッキーを焼き、そのクッキーを他の人と交換するイベントです。特に年末から新年にかけて、家族や友人が集まる場所では美味しいクッキーが欠かせません。この日は15人が集まり、「絶対間違えない」レシピや「初挑戦」レシピなどによるいろいろな種類のクッキーが出来上がり、お寺は一日中甘い香りに包まれました。

### 修正会

した。毎年恒例の行事にしていきたいと思っております。

二〇一六年最初の法要である修正会は、元日の朝十時よりお勤めしました。伊東輪番をはじめ僧侶一人一人から年頭の挨拶をいただいた後、階下でお雑煮とお屠蘇それからメンバーの方が持ち寄ってくださいした自慢のお料理を参詣者の皆さんと一緒にいただきました。元旦のこの日、親しい方々と新年の挨拶を交わす喜びに満ちた声で別院は包まれていました。本年も様々な行事を通して皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。



### 第十二回世界同朋大会 申し込み開始

今年、八月二十七日、二十八日は、ヒルトンロサンゼルス、ユニバーサルシティ及びロサンゼルス別院を会場に『第十二回世界同朋大会』が開催されます。この大会には、日本、ハワイ、そして南米から東本願寺の同朋(親鸞聖人の教えを聴く友だち)およそ300人が集まります。是非この大会にご参加いただき、各地域の方々と交流を深めたいと思います。英語の場合はインターネットでの申し込みとなります。online.jhbusa.com/GROUP/DOBO/ 日本語での申し込みを希望の方は、寺務所に申し込み用紙がございます。

別院の護持会費(年会費)を納めておられる方は3月末まで二五〇ドルの参加費が二〇〇ドルになります。別院にお申し込みください。この優先参加申し込みについては数に限りがありますのでお早めに申し込みください。同朋大会についての質問は監督部(213-621-4064)まで。

## 春季彼岸法要

春季彼岸法要を来る三月二十日(日)午前十時よりお勤めいたします。また同日午後一時より春季セミナーを開講いたします。どうぞお誘い合わせの上、是非お越し下さい。皆さまのご参詣、ご参加をお待ちしております。

## クラフトフェア 出店募集

二〇一六年四月二十四日、午前十時から午後三時まで別院花まつりクラフトフェアを開催いたします。出店希望の方は東本願寺別院 213-626-4200 までお電話下さるか info@hbht-la.org また email をお送り下さい。出店申込の締切は二〇一六年三月初旬になります。



## 十六回 ゴルフ大会

来る三月七日(月)、ヴィアヴェルデカウンティクラブにて第十六回別院ゴルフ大会が開催されます。

トーナメントは午前9時よりショットガン方式で開始し、結果はキャロウェイ方式によって算出します。また参加費は、グリーンフィー、カート使用料、レンジボール、賞品及び昼食込みで百四十五ドルとさせていただきます。この大会の収益金は別院の青少年活動に使用されます。参加者の他にスポンサーも募集しています。ティースポンスーは一ホールあたり百ドル、シルバースポンスーは三百ドル、ゴールドスポンサーは五百ドル、トーナメントスポンサーシップは千五百ドルで四名の参加費が含まれています。ご協力をよろしく願います。詳細につきましては別院寺務所までお問い合わせください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



(仏教といきた言葉  
1 ページからの続き)

る人にとつても、いつかなる時代でも真実であるならば、何故浄土真宗を理解するために日本語が必要だと言えるのでしょうか。もちろん、先生は翻訳が困難な言葉に関しては、外国語をそのまま取り入れる必要性があることも認めておられます。浄土真宗において「信心」「南無阿彌陀仏」といった言葉が頻繁に使われています。しかし、宇宿先生はより身近な例として、フランス語の「ランデブー」、ペルシャ語の「バザー」、そしてドイツ語の「キンダーガーデン」といった言葉を挙げられました。最後に先生は、

「その語が何を意味するのか皆が理解している限り、元の言語が何語であるかは問題ではありません」と言われました。

もちろん、教えを伝達する手段としては、どの言語も完全とは言えません。何故なら、例えば仏教の「阿彌陀仏」とは

私達の言葉や思量を超えたはたらきを表しているのですが、その概念を表すためには結局言葉を用せねばならないことになるからです。これはどの言語にとつても困難な課題です。別院で水曜夜に行われている学習会では、この一年半ほど『大無量寿経』を学んでいます。この經典には阿彌陀仏とその名号である南無阿彌陀仏のいわれが説かれています。もし經典をざっと読むだけであれば、この学習はもつと早く終わっていたと思います。しかし、私達が学習会で行っていることは、經典の言葉に込められた

意味をより深く理解し、その言葉が実際に生きるまでいただくことなのです。また、もしかしたら親鸞聖人ならこのように言われるかもしれません。が、真実に念仏を称えるということは、念仏を生きることそのものなのです。

そして、宇宿先生がエッセイで真に仰りたかったことは、浄土真宗を学ぶ上で日本語であろうと何語であろうと、一つの言語を主要言語として定めるべきではないということです。その根拠としてこのように仰っています。「仏教とは生きた言葉です。仏法は真の安らぎへの道しるべですが、しかし、私達一人ひとりが自分の人生においてその教えが真実であるかどうか確かめていかねばなりません。」先生の言葉に、念仏を生き、信心を獲得せよとの親鸞聖人の声为重なつて聞こえてく

(4 ページに続く)

# みち

(仏教といきた言葉  
3ページからの続き)

るようです。そして、先生は続けてこのように仰います。「自分の人生において教えが真実であると確かめることが出来た時、もうそこから退転することははないのです。」

しかし、仏教が単に個人の経験に関するものであるならば、何故私達は仏教を理解するのにこれほど苦勞するのでしょうか。母国語で仏教について話し合っても、難しく感じるのです。宇宙先生は、仏法を伝えるというこの中心的課題について、このように仰っています。「無量寿は常に私達と共にあり、善人であらうと悪人であらうと、富める者であらうと貧しいものであらうと、日本人であらうとアメリカ人であらうと、変わることなく私達にはたらきかけています。私達が真実に、ありのままの自分である限り、無量寿のは

たらきの中にある人生を生きることができるのです。」先生が言われる「真実のありのままの自分」とはどういう意味でしょう？先生は親鸞聖人の例を引いて、このことについて説明されています。「そこで私達の心に響くものは、親鸞聖人が煩惱具足の凡夫として、また深い報恩謝徳の念をもつて人々と共に生きられたことです。」「真実のありのままの自分」とは、親鸞聖人が御自身の人生をもつて示されたように、はからいや煩惱に満ちた自身をありのままに見つめた深い自覚なのです。

宇宙先生はエッセイの締め括りとして、大切なメッセージを残されています。「忘れてはならないことは、言葉はただ私達をして信心に向かわしめるものだということ。私達は、言葉に込められた声に深く耳を傾けねばならないのです。」

そしてその声によつて、私達は道を歩み出すことができるのです。その声はすでに言葉を持たず、ただ私達のはからいを超えた智慧と慈悲による無限のはたらきとしてあるのです。」つまり、大切なことは言葉ではなく、

仏教は仏法そのものを生きること、指し示して理解すること、アメリカにおいて仏教を英語で聞くことになったとしても、必ずしもそれが仏法を生きることにつながることは限らず、また「その声を聞く」ことにつながることも限りません。仏道を歩み始める上で不可欠なことは、教えを深くいただくことであり、そのことによつて初めて仏道が私達の目の前に開けてくるのです。

宇宙先生のエッセイは、アメリカの浄土真宗寺院にとつて大切なことを指し示して下さっています。もちろん言葉は大

切にしなければなりません。最も重要なことは言葉そのものではなく、

仏法と真に出会うことなのです。それでは、ここに「言葉や思量を超えたはたらき」をわかりやすくすることができのでしょうか？「生きた言葉」とはいかなる言葉でしょうか？東本願寺が浄土真宗の教えを明快で分かりやすい英語で布教すれば、それはきつともまくいくことと思えます。しかし、宇宙先生のエッセイに示されているように、単に「全てを英語で行う」こと以上にすべきことがあるのです。私達は、教えを伝えるために新しく、効果的な方法を見つけなければなりません。より正確に言えば、

のです。

宇宙先生は、日本語を浄土真宗の主要言語とするによつて最も大切なことが見失われてしまふと仰っているのです。最も大切なことは、仏教の真実を自らの人生をもつて証していくことです。私自身も、常にこの真実を我が身に感じています。親鸞聖人のいわば謙虚さ、聞法の精神、凡夫の自覚は人種や文化、言語の違いを超えて誰でも共有することができ

るものであるという真実です。例えば音楽のように、聞法の精神は普遍のものなのです。「真実のありのままの自分」として生きていく人との出会いは、忘れることのできないものです。もし私が真宗の精神を体現している先生と出会っていかつたら、言語にかかわらず、仏教を学ぼうとは思わなかつたことでしょうか。

